



施設の着工は平成31年で、今後、海洋環境を作り出すシミュレーション装置を追加で整備する



発足式では看板の除幕式を行った後、施設内に設置された大型水槽や機器操作室などを見学した



「関連企業の誘致や先進技術の研究による知の集積地となることを期待している」と話す福田市長



壁面に吸音材が施された大型水槽内部は実際の海の音響環境を再現することができるため、より効果的な試験評価が可能となる

海洋の先進的分野の拠点として

市政 PICK-UP

防衛装備庁艦艇装備研究所の岩国海洋環境試験評価サテライトの主要施設が完成し、9月5日、岸信夫防衛大臣や同施設の岩国市への誘致を進めた村岡嗣政知事、福田良彦市長らが出席し、同サテライトで発足式が行われました。

この施設整備は国が東京一極集中を是正するため、政府関係機関の地方移転事業で提案募集を行ったもので、平成27年に岩国市が県と共に防衛省に誘致を提案し、実現したものです。

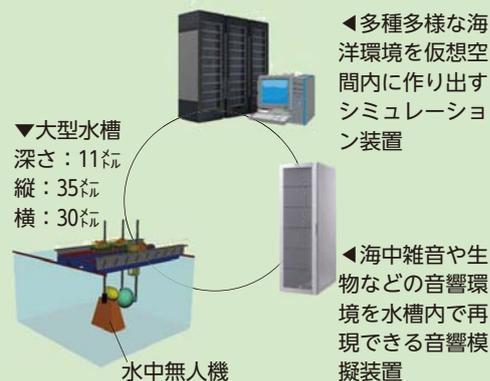
岩国海洋環境試験評価サテライト発足式

通津沖工業団地内の約3万平方メートルに水中無人機試験棟などを整備した施設では、水中無人機などの試験評価を海に出ることなくシミュレーション装置などを用いて実施できます。

今後、防衛分野だけでなく民生分野への活用も見込まれており、海洋資源の探査や海底ケーブルの調査点検、災害時の水中救助活動の研究などによる関連企業の進出や大学などの研究機関との協力が期待されています。

国政策企画課 ☎(29)5013

試験評価イメージ



手話は大切な「言語」です

9月27日、岩国市手話言語条例が施行されました。

耳の聞こえる人が音声で会話するように、ろう者の多くは手話を使って、学び、考え、コミュニケーションを図ります。

手話は手、指や体の動き、表情を使って物の名前や意思などを表現するもので、ろう者によって大切に受け継がれてきた大切な言語ですが、その認識は十分に定着していません。

そこで市は条例を制定し、手話は独自の言語であるという認識の下、手話の普及、手話の習得機会・手話による情報取得の機会・計画的に推進することとして、手話が言語であることへの理解や、市の施策への協力に努めることも定めています。

岩国市手話言語条例の施行

市は条例制定を契機に、市民と共に手話やろう者に対する理解を深め、ろう者を含む誰もが安心して暮らすことのできる地域共生社会の実現を目指します。 困障害者支援課 ☎(29)2522



手話奉仕員養成講座では、毎年多くの人が手話を学んでいる



条例の施行を契機に手話通訳の入った記者会見動画を公開している



電子図書館ログイン画面。図書利用券番号とパスワードを入力すると利用できる

誰もが利用しやすい図書館に

10月1日から岩国市電子図書館の運用が開始されました。

電子図書館とはインターネット環境があればパソコンやスマートフォン、タブレットなどで電子書籍が借りられ、いつでもどこでも読書を楽しむことができるサービスです。

この取り組みは新型コロナウイルス感染症の感染拡大が心配される中、人との接触をできるだけ減らし、より安心安全に図書館を利用してもらうことを目的に開始されました。

岩国市電子図書館の開始

電子図書館では運用開始時点で、実用書を中心に約1300点の電子書籍コンテンツを取りそろえています。書籍の中には文字の拡大機能や音声読み上げ機能を備えたものや登場人物が動く絵本などがあり、視覚障害者や子育て中の保護者も利用しやすくなっています。

今後は毎月1500〜2000点程度の書籍を追加していき、利便性の向上やコンテンツの充実を図っていきます。

困中央図書館 ☎(31)0046



9月の市長月例記者会見では電子図書館で動く絵本を見るなど利用方法のデモンストレーションが行われた